

卒業していく33回生へ



未来へはばたけ33回生

33回生サッカー部 卒業から「心ある人」へ

滝川第二高等学校サッカー部 監督 松岡 徹

33回生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。高校生活は、充実した3年間になりましたか？サッカー部員として多くの経験を通じて、たくさんの事を身につけてくれたことだと確信しています。県新人戦、県総体、近畿大会、県選手権と4大会続けて準決勝敗退となった。何が足りなかったのか？新チームになった時に、「ほんの少しの違い」という文章にしたプリントを渡したことを思い出します。

33回生とは、2016年9月に1週間台湾遠征(学校の関係で参加できなかった生徒もいますが)に行きました。現地では黒田和生さん・黒田明子さん・通訳の陳さん(現在ドイツ)などに大変お世話になりました。現地の選手同士の試合・交流だけでなく貴重な経験を含め有意義な1週間を過ごすことができました。また、私自身台湾の人達が心温まる歓迎をしてくれたことに感動しました。高校3年間の試合結果だけではなく、台湾遠征で学んだ「同じ絵」を33回生で見れたのではないのでしょうか？

アメリカの野球選手ジャッキー・ロビンソン(1919-1972)有色人種選手にMLB参加の道を開いた選手の言葉です。

A life is not important except in the impact it has on other lives.

「他人の人生に影響をもたらしてこそ人生には意味がある」

これからも滝川第二高校サッカー部のモットー「怯まず・驕らず・澁刺と」を忘れずに「心ある人」を目指してください。今後の活躍を期待しています。3年間ありがとうございました。

兵庫県高校サッカー選手権試合結果

◎10月14日(日) 2回戦

滝川二 11-1 洲本高校
(千原、森川、口石、
島3、中森4、池尾)

◎10月27日(土) 3回戦

滝川二 0-0 琴丘
(PK
5-3)

◎10月28日(日) 準々決勝

滝川二 1-0 三田学園
(口石)

◎11月4日(日) 準決勝

滝川二 0 ($\begin{matrix} 0 & 0 \\ 0 & -1 \end{matrix}$) 1 県立西宮高校

第97回全国高校サッカー選手権大会 兵庫県大会

3年 榎谷 翔太

何としても落とせない、絶対に全国に行かないといけない選手権は新人戦、総体と同じ準決勝敗退という結果で終わってしまいました。

3回戦から苦しい試合が続きましたが試合を重ねるごとにチーム力そして自信がついたと思います。1番の壁と言われた準決勝も誰1人油断することなく最高の準備をして挑みました。しかし準決勝敗退と全国大会には行けませんでした。

行けなかったのには理由があり、それぞれが考えこの悔しい経験を1、2年生は残りの高校生活で、3年生は次のステージで活かさないといけません。負けはしましたがチーム全員で勝ちに向かって戦えたことはすごく良かったと思います。

最後まで応援してくださった方々、本当にありがとうございました。また、引き続き応援のほどよろしくをお願いします。



絶対にゴールは割らせない！



選手権に向けいざ出陣



皆の思いを背負って



後一步届かなかった夢思いを託し

〇〇 自分の夢へ向かってGO!! 〇〇

33回生の3年間の思い出を掲載します。

「無冠」

3年 西垣悠暉

僕は、3年間で色々な事がありました。

まず、1年生の時はインターハイ予選のメンバーに入れてもらいとても高いレベルで練習する事ができ、とてもいい経験になりました。遠征や合宿などで1年生が食事の準備や練習の準備などすべてしなければいけなかったのが大変でした。そして夏休みに入り色々あり2ヶ月半ほどサッカーができなくて、毎日夜まで掃除をして、練習中はボール拾い、水の準備などをし、この期間でとても成長できました。そして復帰してオーシャンカップのメンバーに入ることができました。強豪校と対戦でき非常に充実した期間でした。

2年生では、新人戦に出させてもらい、インターハイではベスト8という悔しい思いをしました。プリンスリーグ参入戦ではPKを止めて勝てたのがとても嬉しかったです。選手権は全国大会に出場し、自分も一度ベンチに入ることができとてもいい景色で貴重な経験ができました。

そして3年生になり、最高学年としてプレッシャーを感じました。色々目標は立てましたが1つも達成することができませんでした。個人としても、サッカーを楽しめなくて、あまりいいプレーも

できず悔しい終わり方となってしまいました。

新人戦、インターハイ、近畿大会、選手権とすべてベスト4で負け、すべて3位というとても悔しい結果ばかりで情けなく思います。そこには何かが足りなかったのだと思います。

さらにプリンスリーグ関西降格、県リーグ1部降格と後輩達に何も残せない学年でした。なので来年こそはいい結果を残して欲しいと思います。



日々努力

3年 木村日弥紀

僕の三年間の思い出は、1日1日が思い出です。なぜなら、僕は怪我をし、試合に出場する機会は今全くなかったけど今の自分があるのも毎日、監督、コーチ、チームメイトに何を言われても自分が思い描く理想に近づくために努力し続けたからだと思っています。しかし、それはただ何ヶ月の努力ではなく、何年っていう努力でした。周りには馬鹿に見えるだけかもしれない、コーチには反対され続けるかも知れない。それでも、自分がすべき事を全うする事こそが努力なのだ気付きました。そのおかげで、僕は今の広い心も、人間的な面も成長できたと思います。

僕は、やり残したことはありません。そして、後悔もありませんが、悔いは残っています。だからこそ、これから滝川第二に入る選手、生徒には悔いの残らない高校生活を送ってほしいと思います。



選手権

3年 榎谷翔太

高校サッカーの代名詞とも言える「選手権」

自分は選手権に出たくてこの滝川第二高校を選びました。そのチームの1年の締めくくり、そして成果として戦う大会を3年間経験できたことは自分にとってすごく大きなものだと思います。その選手権のことをメインとして自分の高校3年間を書きたいと思います。

1年生の時にはメンバーとして全国大会のベスト8を経験することができました。約4ヶ月、トップチームの一員として普段の練習から先輩達とトレーニングできたことはすごくプラスな事だったと思います。しかし自分は県大会、全国大会を通して一度もベンチに座ることさえありませんでした。

2年生で迎えた選手権ではピッチで戦える時間も増え、1年生の頃よりも自分がチームの為にできることが目に見える形で増えました。1年生の時よりもプレッシャーのかかる状態での県大会でしたが3年生の力が本当に大きくて難しい試合も勝ちきれることができました。しかし全国大会では2-0からの逆転負けで終わってしまいサッカーの怖さを痛感させられました。そして自分達の学年が中心となるべき年になり、新人戦、総体と落とし、後のない状態で選手権を迎えました。

絶対に全国に行くという強い覚悟を持って戦ったけれど県予選準決勝敗退で終わってしまいました。一番全国に行きたかった時に行けなかったことは本当に辛かったです。3年間、選手権という自分の中で1つの目標に向かって走り続けたことは大きな財産になりました。自分の高校3年間の全ては選手権に詰まっていると言って過言ではありません。それだけ選手権という目標は自分を大きく成長させてくれるものだと感じました。

このような素晴らしい経験をさせてくれた両親、指導して頂いたスタッフの方々、そして一緒になって戦った仲間には感謝しています。本当に3年間ありがとうございました。



3年間を振り返って。

3年 松村泰地

僕は滝川第二高校サッカー部に入っているいろいろなことを学びました。先輩の上下関係や生活面などのことを厳しく指導していただき、とても感謝しています。そのおかげで人間性は成長した気がしています。勉強面でも英語を教わって英語力が上がったのでよかったです。サッカー面では自分は選手権に出場することができなくて悔しい思いがありました。もっと努力をして周りとのレベルの違いをはっきりとつけるべきでした。これからはサッカーを続けることになったら滝川第二での経験を生かして頑張っていこうと思います。自分の中で一番楽しかった思い出は台湾遠征です。

台湾は自分にとても良い影響を与えてくれた国です。台湾は優しい人が多くて感動しました。自分たちの代はニューバランスカップやプリンスリーグ、新人戦、インターハイ、選手権すべての大会で結果を残せなかった。結果を残せなかった要因はどこにあるのかはわからないけど、3年間のあいだ33回生全員で最後までサッカーをすることができたことはとても楽しかったし嬉しかったです。みんなありがとう。



3年間で得たもの

3年 岡田 兼 孟

僕はこの3年間で悔しい思いを幾度となくしてきた。

1年生の時のニューバランスカップ、初戦の鹿児島実業高校には1-0で勝利しチームは好調かと思っていたが、札幌大谷高校に1-1で引き分け、星稜高校には0-1で負けてしまい予選リーグは3位で終わってしまった。札幌大谷高校も星稜高校も試合終了間際に得点され、なんとも悔いの残る結果だった。それでも、ニューバランスカップは全チームが強豪だったので順位決定戦でも東福岡高校や作陽高校、東北高校と試合をすることができた。それでも東福岡高校には0-1で敗れ、作陽高校には2-5で敗れてしまい、鹿児島実業高校に勝った時のような自信は無くなっていて、あれほど涙が出て悔しかったことはなかった。

2年生の時の選手権、県予選の時からメンバーに選ばれた。初めてメンバーに選ばれて何か爪跡を残したいと意気込んでいたが結局、全国に出ても試合に出場することはなかった。周りの2年生は試合に出場しているのに対して出れていない自分に対する焦りや悔しさは今まで感じたことがないくらいだった。3年生になって怪我が多くなりチームから離脱する事がとても増えた。中でもプリンスリーグ第5節近畿大学付属和歌山高校との試合で負った右眉の怪我は、今までの人生で1番大きい怪我となった。その怪我のせいで手術もしなくてははいけないし、長期の離脱を強いられるし、なによりインターハイに出ることは

不可能となった。あの時ほど怪我を憎んだことはなかった。自分のケア不足などで怪我したのならまだいいが、完全に相手のせいで負った怪我で誰も責めることはできなかった。

そして最後の選手権、今年は1つもタイトルが取れなくてこのままでは無冠の代になってしまうという中で、準決勝県立西宮高校に0-1で敗れてしまった。改めて振り返ると本当に悔しい思い出がたくさんある。この悔しい思い出は悔しいままにしておくのではなく3年間で得たものとして次に活かしたいと思う。



己を知る

3年 加 納 寛 和大

3年間で人として成長することができました。

新しい環境が、たくさんの刺激が自分を様々なきっかけへと導き、色々な価値観や知恵を与えてくれました。知らないと選べない選択肢へと可能性を広げてくれました。思い通りにいかないことがほとんどでした。そんな時に嫌でも出てしまう自分の本質を知ることができる時間でした。自分への理解を深めたところで改めて分かりました。それでも自分の考えや本質を変えるほど信念が無く、つらい事はあるのかと。あるスタッフには、『素直さ』と一言だけ書かれて返却されることが何度かあったりもしました。直さなくてはいけないと、思いながらも直すことができませんでした。それが自分なんだと分かりました。1番の大きな収穫です。道に行き詰まったら、信念に従えばいいと思います。決して後悔することがないから。他人の言うことに従ってばかりだとストレスがたまり、しょうもない人間になります。僕は、3年間実践したつもりです。この3年間は、どれもこれも大切な未来への糧となり、血となり肉となります。この3年間と比べると、多くの壁は、壁にみえないでしょう。



充実した3年間

3年 柏原 悠人

僕は、小学4年生の頃、全国大会で優勝した滝川第二高校を見て、この学校に入りたいと思うようになりました。滝二に入るという明確な目標があったので、人一倍頑張ることができ滝川第二高校サッカー部に入ることができました。

1年生からトップチームに入れてもらい、色んなことを経験しました。はじめは萎縮してしまい思ったようなプレーができず、足を引っ張ってしまうことが多く、ついていくのに必死でした。インターハイでは、限られた人数の中推薦でメンバーに入れてもらい、試合に出ることはできなかったけど、全国ベスト16を経験しました。入って数ヶ月で1年生1人だけで大して喋れる先輩もいない中、何日も寝泊まりするのは少し苦痛だったけど、チームのまとまりやピリピリ感を肌で感じることができ、とても貴重な経験になりました。

この経験を胸に、次は全国で試合に出るという強い意志をもって挑んだ2年生は、個人的に成長できた年でした。夏と冬、どちらも県予選は怪我からのスタートでした。インターハイは次の対戦相手の偵察に行っている時に負けたという連絡が来て、滝二の試合を見ることすらできませんでした。この悔しさを晴らすための選手権もまた怪我からのスタートでした。正直とても怖かったけど、チームのみんなのおかげで全国大会に出場することができました。県予選一度も試合には出ていないけど、全国は出るという強い意志を持って練習し、夢の選手権という舞台を経験することができました。結果はベスト32と納得のいくものではなかったけど、諦めない気持ちが自分を成長させられた年でした。そして、自分達の代がきました。結果から言うと無冠で終わり、最後も怪我で試合には出られませんでした。不完全燃焼ではあるけど、この3年間に後悔はありません。最高の仲間に出会えたこと、滝二でサッカーをした時間は僕にとって宝物になりました。3年間本当にありがとうございました。



滝二での3年間

3年 中森 翼

33回生のみんなと過ごした3年間はあっという間でした。でも中身の詰まった3年間でした。

遊んだり、喧嘩したり、怒られたり、色々ありました。僕の大嫌いな走りではみんなに励ましてもらい引っ張ってもらって助けてもらいました。辛い練習の時も楽しい時も一緒に過ごした3年間はすごく良い思い出です！そんなみんなに出会えて良かったです。ありがとう。



そして指導してくれたスタッフの皆さん、いつもサポートしてくれた父母の会の皆さん、ありがとうございました。この学年は三冠と全国優勝を目指しましたが結局全国にも行けませんでした。

大学はアメリカに行き色々な環境の中で刺激を受けながらもっと成長し日本1位を取れなかったのが全米1位を取ります。

最後に3年間滝二に通わせてもらい、いつも応援に来てくれた両親には感謝しています。

苦しかったけど、気づけたこと

3年 島 和 暉

自分にとってこの3年間は本当に苦しい3年間でした。僕は、セレクションの時から上手い選手ではなく家族からは、受からないだろうと思われていたと思います。だけど、運よく受かる事が出来て、「絶対に見返してやる」という気持ちで入学しました。

1年生の時は、下手だった僕にチャンスが来て、選手権メンバーに入れてもらった時は、本当に嬉しかったです。しかし、先輩がいる中で自信のあるプレーができず、ついていだけで精一杯でした。先輩には、すごく怒られ、本当にサッカーが嫌いになるぐらいでした。

2年生の時は、怪我が多くプレーが上手くいかない中で、父が倒れ、家族からは、「お父さんの分まで頑張れ」と言われたり、長兄の思いを聞かされたりと、自分はプレッシャーで押しつぶされていました。さらに、試合に出れない時期が続き、家族からは、次兄に比べられる事が多く、本当に家族と喋る事が嫌な時期でした。その時に、母に怒りながら、「人の思いを背負う事は出来ない」と言って当たったのを覚えています。

3年生になると、インターハイの3回戦～5回戦に出れなかった時は、本当に悔しかったです。でも、この気持ちがあったからこそ、試合に絶対に出たいと思って頑張れました。そして試合に出た時には、人一倍に出れない選手の気持ちを思いプレーしていました。初めて、人の気持ちを背負う

ということを実感できたのは、滝二に来て一番良かったことです。だけど、選手権は試合に出ている中、勝つ事が出来なくて、本当に申し訳なかったと思います。最後は、全国に出て、笑って終わりだったけど、できなかった事は、滝二に来ての一番の後悔です。

僕は、本当に3年間悩み続けて、苦しかったけど、滝二に来たからこそ得られたものがありました。

最後に、家族や3年のみんな、僕のことを支えてくれた人には、感謝しています。ありがとう。



ありがとう！

3年 井 関 雄 太

あっという間に終わってしまった3年間でした。個性豊かな学年で本当に楽しかったです。自分達の代で思うような結果が出ずに悔しい締めくくりとなってしまいましたが、たくさんのことを学べた3年間になりました。自分がこの3年間で1番感じたのはたくさんの人に自分は支えられていたんだということです。僕はすごく怪我が多くてたくさん悔しい思いをしました。だけど、そういう悩んでる時にたくさんの人に支えもらい、そういったつらいときにもなんとか頑張ることができました。この3年間で自分を支えてくれた方々には感謝しかありません。特に寮にも入れてくれて怪我の度に支えてくれた親には本当に感謝してます。3年間ありがとうございました。本当に自分だけでは3年間頑張りが続けることも出来なかったし、つらい時もしんどい時も一緒に笑ってられたみんながいたからこそここまで頑張ることができました。みんな本当にありがとう！楽しかった！！

これから先つらいこととかしんどいこととかたくさんあると思うけど感謝の気持ちを忘れず、1日1日を大切に頑張っていこうと思います。



高校サッカー

3年 小山 愛生

滝川第二高校での3年間は本当に充実したものになりました。

2年生のインターハイからAチームに参加させていただき、より高いレベルでプレーすることができました。この時に自分自身初めての全国大会を経験させていただいて、とても緊張感のある中で楽しむことが出来ました、2年生の時には本当に様々な事を学びました。

3年になり、自分達の代になってより責任感が強くなった中で何度もミーティングをして、厳しい時期をなんとか乗り越えようとみんなでやってきました。

個人的には怪我で新人戦、インターハイに出れなくなり、1番怪我で苦しんだ年でした。

サッカーをしたくて、とても辛くてやるせない気持ちが続き不安になりました。

しかし、色々な人の支えや応援のおかげで諦めることなくやり遂げることができました。本当に感謝しています。

この代はみんなが納得のいく結果を得ることが出来ませんでした。やっぱり悔しくて今でもこれからもずっとこの気持ちは変わらないと思います。しかし、この思いを忘れずに今後の大学生活や社会に出て活かしていきたいと思っています。

この33回生は、なっかなか癖のある学年で本当にキャプテンも苦労したと思います、ありがとう！

最後に、今まで33回生を支えてくださった関係者の皆様、家族、スタッフの方々、本当にありがとうございました。感謝を忘れず、これからもやっていきたいと思っています。



行動あるのみ

3年 全 聖 矢

3年間色々ありました。

怪我ばかりしていた一年生の時はサッカーがしたくて仕方がなくて。やっとプレーが出来るようになった二年生の時はただただ楽しくて、幸せでした。三年生になればもっと楽しくなると思っていたけど、それは少し違いました。

最後の1年間は悩む時間が増えました。僕は悩みに悩んで行動しませんでした。自分のポジションに納得がいけない時も、チーム状況が最悪で話し合いをした時も監督に伝えることはしませんでした。今思えば、監督の采配を信じているから、自分たちでまずは出来ることがあるだろうから、そうやって行動しない理由を正当化していただけだったのかもしれない。

後輩たちとこれからの自分に伝えたいことが1つだけあります。悩む暇があれば、行動をして欲しいということです。一寸先は光と信じて行動し続けてください。



高校サッカーを通して多くの人に支えられ、応援されていることを実感しました。また、素晴らしい先輩や後輩に出会うことができました。素晴らしい思い出ができました。全ての出会いに感謝しています。ありがとうございました。

～33回生のみんなへ～ 大好き。ありがとう。とりあえず仮免合格頑張ろか。

最高の経験

3年 赤瀬 来 威

僕は滝川第二高校サッカー部に入って他ではできない事をたくさん経験させてもらいました。台湾や全国各地に遠征に行かせてもらったり、リーグ戦でも強いチームと試合ができたり、僕は中学生の時は部活に入っていたのでこんなに恵まれた環境でサッカーができるのかと驚きました。滝二に入ってよかったと思うことは他にもあります。それはこのチームメイトに出会えたことです。みんな変わった性格で、普通に過ごしていても笑顔になれるような面白い学年でした。とくに宮島氏にはたくさん驚かされました。遠征の自由時間にはせっかくだらった貴重な1時間をすべて卑猥な映像を鑑賞するのに使ってしまった時は、こんな人も世の中にはいるんだと良い社会勉強にもなりました。本当にみんな面白くてサッカーをしていてもしていなくても毎日楽しかったです。今までの人生で一番笑った三年間でした。学年としてはあまり良い結果は残せなかったけどすごく中身の濃い三年間だったと思います。そして、スタッフの方々には本当に感謝しています。廣瀬先生には県リーグでとても長い間お世話になりました、チームの改善点等を明確にミーティングで話してくださいだったり、僕たちがサッカーを理解するために力を尽くしてくださいました、本当に感謝しています。中尾さんには僕が凄く悩んでいて苦しい時に声をかけていただきました。本当に感謝しています。僕も些細な人の変化に気づき優しく声をかけてあげられるような人になりたいと思いました。今は滝二には居ない黒田達也さんにもたくさんのお話を教わりました。中学生の時は何も考え



ずにサッカーをしていて、高校に入って考えてサッカーをする事を教えてくださったのが黒田先生でした。バカとかアホとか色々言われましたが、サッカーを教えていただきありがとうございました。そして僕をサッカー部に入れてくださった監督。ありがとうございました。色々な経験をさせていただきましたが、全てが新鮮で意味のある最高の経験だったと思います。僕は滝川第二高校サッカー部に入ってよかったです。

滝二での3年間

3年 藤 崎 祐 也

3年間を振り返ってみて、とてもはやく過ぎた3年間だったと特に感じます。最後の1年間はもっともはやく感じて、そしてなにより悔しい結果の年でもありました。

ぼくが一番もったいないと思ったことは怪我をすることでした。自分の身体の状態を常に把握することは上達する上で欠かせない要素の一つなんだと実感しました。

自分達の代で掲げた目標を達成することは叶わなかったけれどけっして無駄なことはなかったしサッカー以外のことでもたくさんのお話を学ぶことができました。この経験を活かして今後の人生につなげていきたいと思っています。



自信

3年 平田 夏月

滝二で過ごした3年間はあるという間に過ぎていきました。この3年間は自分の満足のいくような3年間ではありませんでした。悔しい思い出のほうが多かったです。しかし、この3年間で自分はとても大切なことを学ぶことができました。それは自分に「自信」を持つということです。

1.2年生の時に周りを気にしすぎて自分をだせず、サッカーを「楽しむ」ということができずにませんでした。3年生になってからは周りを気にすることがアホらしくなり自分をだしていくと、サッカーを楽しむことができていきました。

なぜ周りを気にしすぎたのだろう、なぜ自分をだせなかったのだろう、なぜサッカーを楽しむことができなかったのだろう、と振り返ってみると自分に「自信」がなかったんだと思います。3年生の時のインターハイが終わったあと、中尾さんに「自分に自信を持ってない、自信を持てるように」と言われてから「自信」を持つように心がけているとだんだんとサッカーが楽しくなっていきました。自分では前から分かっているつもりでしたが、人から言われることによってさらに意識できたんだと思います。

それがあったおかげで、自分に「自信」を持つことはとても大切なことだと学びました。このことを学べたことは、この先の自分の糧になっていくと思います。

松岡先生、廣瀬先生、中尾さん、藤森さん、僕達が充実して練習や試合をできる環境作りをしていただきありがとうございました。

忙しい中でも兄弟3人とも試合を見に来てくれるお父さん、お母さんありがとう。親孝行ぜんぜんできてないし3年間苦労かけたけど支えてくれてほんまにありがとう。

後輩の皆さん、自分達が滝二でサッカーができるのは色んな人に支えてもらっているおかげです。それを認識してサッカー頑張ってください。



イレブン

3年 古閑 虎太郎

この3年間で良い時も苦しい時も含めて良い経験をする事ができたと思います。

また松岡先生から心の大切さを学び、高校サッカーを通じて人として成長する事ができました。監督や指導して下さった皆様には感謝しています。そして33回生のみんながいてこの代でやれたことを誇りに思います。遠征やリーグ戦がどう頑張っても勝てなかったりして苦しい時期を過ごしてどうやって勝つか考えたり引っ張ったり精神的にきついこともあったけどいい経験ができたと思います。また、全国大会に出れずその準決勝のピッチに立てないということは小中学校でなかったことで、出れないときの気持ちやそのための努力やメンタル面での成長ができて本当に良かったです。



この経験がただの思い出にならないようにしっかりと胸に留めて今後のサッカー人生を進んでいきたいと思っています。

そしてアドバイスをくれた先輩や可愛い後輩達、自分の子のように「こたよかったよ!」「ナイスプレー」といつも応援してくれた保護者の方々、そしてどんな時も応援してくれている家族のみんなの支えがあったからこそこの3年間でした。これからも応援よろしくお願いします。

挑戦から得たもの

3年 日 和 龍 真

僕にとって滝川第二サッカー部に入ることは1つの大きな挑戦でした。

小学時代、中学時代と決して強豪とは言えないチームでただ我武者羅にプレーしていました。サッカーをやっていく中でもっと上手くなりたい、もっとレベルの高い環境でプレーしてみたいという気持ちがあり、滝川第二高校に入りたいと思うようになりました。小学、中学時代を通して、僕は、家族、共にプレーしている仲間、指導して下さっている方の存在の有難さを痛感しました。その人たちに滝二に入り活躍することが一番の恩返しだなと思い、一生懸命に練習に取り組んでいました。

しかし、そう簡単にはうまくいきませんでした。滝二に入学するサッカー部の子は自分より実力があり、大きな差を感じました。その大きな不安を胸に滝川第二高校に入学しました。1年生の時は自分のプレーに自信が持てず、情けない一年でした。自分はこのまま試合に出られないんだろうなど弱気な気持ちに負けそうになったことがたくさんありました。でも、そこで諦めず練習に取り組むことができたのは親の支えが大きかったです。学校までが遠い分、朝練に行くときは早く起きないといけませんでした。でも、いつも自分より早く起きて弁当を作ってくれていた母の姿を見ると自分の弱い気持ちだけで努力を疎かにしてはいけない、自分の活躍している姿を見せたいという気持ちが大きくなりました。

2年生になると環境にも慣れていき、自分のプレーができるようになり、自信もついていきました。しかし、その一方でケガが増えていきました。そこで、中学時代、手術を受け、その際お世話になっていた理学療法士の方の家に週に一回程度通わせていただき、自宅でするストレッチなども教わり、ケガには十分注意するように毎日ケアを欠かさずやっていました。でも、選手権前に肉離れをしてしまいました。ここで諦めてはいけないと無理してプレーを続けてしまい、長い間サッカーができませんでした。僕はこのケガで学んだことがあります。それは、ケガをした時には自分にとってこの判断は正しいのか、これからの自分のために今プレーすることが良いことなのかをしっかりと考えることです。

3年生になると2年生のケガの影響で最初の試合にはほとんど出られず、悔しい思いでいっぱいでした。それに加え、高校の最後の年というプレッシャーを感じていました。ほかのメンバーは経験を積み、明らかに自分との差が開く一方でした。でも、僕は怪我をしてほかの子以上に支えてくれている人への感謝の気持ちを改めて強く感じました。その気持ちを胸にまず最後まで諦めず一生懸命にプレーしようと思い練習してきました。でも、思うような結果は出ず、さらには大きな怪我をしてしまいました。



僕はこの3年間を通して、一生懸命プレーすることが全て良いことだと限らないといういろんな人の考えもあるけど、僕にとって、今まで何事にも前向きに一生懸命に取り組んできたからこそ、素晴らしい仲間に出会い、素晴らしい環境で、そして何よりも周りの人に支えてもらうことができたと思っています。ありがとうございました。

こんなかけがえのない素晴らしい環境に身を置かせてもらい、最高の経験をさせてもらった親には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとう。

『克己心』を胸に。

3年 道上 朝 陽

私はこの3年間、非常に内容の濃い日々を送ることができたと実感しています。

まず寮生活では、親元を離れて多くの人と同じ屋根の下での共同生活ということで最初は慣れるまでは大変でした。しかし退寮した今、振り返ってみると自己管理能力やコミュニケーション能力、そして礼儀作法などが身についたと感じています。更に寮委員長を務めさせて頂きました。様々な経験により責任感が自然に身についたと思っています。

そして部活動でも多くの経験ができました。みんなと過ごした3年間の中でも、特に3年生になって33回生が丸一となって臨んだ新人戦やインターハイ、近畿大会、そして選手権などは記憶の中に鮮明に残っています。私は怪我が多く高校2年生の秋頃には右膝の半月板の手術をしました。当初は半年間もの間、サッカーから離れてしまうということや、手術してからの1ヶ月間は松葉杖での生活、リハビリの日々と、不安だらけの生活を目の当たりにして非常に辛い日々を過ごしました。ですが、そのような状況にあった自分をサポートしてくれたサッカー部のスタッフの方々、33回生のみんな、そして家族をはじめとする多くの人に感謝しています。こうして今いる自分が当たり前ではないということを強く実感しています。

正直、3年生になるにつれて日々の葛藤は強くなっていました。理不尽だと思ってしまった時も逃げずに自分なりに努力をして最大限のプレーをしてきました。選手権の最後の試合でもベンチ外でとても悔しい思いをしました。悔しい想いの方がかなり多い3年間でしたが入学した当初からの自分のテーマである『克己心』を胸に、どんなに辛い時も自分に負けない気持ちで頑張ってきました。ひたむきに努力した時間は将来決して無駄にならないと確信しています。

この滝川第二高校サッカー部として3年間、良い仲間と過ごせた日々は自分にとってかけがえのない宝物です。最後になりましたが、家族や、サッカー部のスタッフの方々、サッカー部に携わっていただいた多くの関係者の皆様、3年間本当にありがとうございました。



成 長

3年 向 野 世 音

まずは、自分の家族、仲間、スタッフ、保護者の方々また地域の方々に感謝申し上げます。

僕は、いろんな怪我をして、挫折をあじわいました。怪我をしたからこそ自分になりたいことを新たに見つけることができたし、色んな関わりが増え、いろんな考えを聞くこともできました。プレーができないのは、とてつもなく苦痛ではありましたが、だからこそ精神的にも人間的にも成長



することができました。少しだけですけどね。全国に行けなかったのは、非常に残念でした。各々思う気持ちはあるかもしれませんが、みんなならこれを糧に成長するはずですよ。みんなとは、いろんなしんどい思いをしてきたし、嬉しい思いもしてきました。おれは、どこに行っても堂々と滝川第二でやってきました、っと言えます。いい仲間にも恵まれたと感じます。親には、ずっと迷惑かけてきたけどおれのこれからの成長を見ててください。次は、自分が恩返しをしたいと思います！

楽しかった三年間

3年 宮島清次

入学して高知遠征に行ったのがつい昨日のように思えます。そのくらいあっという間の三年間でした。三年間トップの試合にでることができず目標だったものを一つも成し遂げることができなく非常に情けなく残念に思います。ですが僕はこの三年間で沢山の経験をさせてもらいました。本気で泣いた時もありましたしみんなで感動を分かちあうこともできました。目に見える結果は残せていないですが充実した三年間を過ごすことができました。

後輩のみなさんへ結果がでるかでないかわからないうまくなるかならないかわからないけれど自分がやる！と決めたことは周りの人に流されずやりとおしててください。僕は体の強さは誰にも負けたくない一対一に強くなりたいとおもい体幹と筋トレと坂道ダッシュは毎日欠かさずしました。



自分を信じて目標にむかって日々精進することがこの三年間で一番大切なことだと学ぶことができました。まだまだ1.2年生は始まったばかりです、サッカーができる喜びと楽しさを忘れず頑張ってください。

最後にBチームでは広瀬先生、中尾コーチに大変お世話になりました。本当に2年間ありがとうございました。また松岡先生この素晴らしいチームに入部させて頂きありがとうございました。一生の思い出となる濃い三年間でした。本当にありがとうございました。

「自分次第」

3年 青田稜也

長かったようであっというまの3年間、楽しいことも辛いこともたくさんありました。中でも特に印象に残っているのは、最後の大会である高校サッカー選手権大会です。私は1、2回戦まで出れなく、3回戦の後半に出場させてもらいました。本心を言えば、最初から出たい気持ちはありました。でもチームのことを考えたり、私自身の力の無さを考えると、当然なのかもしれないと思うこともありました。選手の代表として試合に出る限り死に物狂いで戦い抜くことは意識し続けたが、最後まで結果を出すことは出来なかったです。負けたあの試合は今でも思い出し、悔しさが残る試合になりました。悔いが残らないようにと、してきたつもりがつもりでしかなかったということに改めて気づかされました。今、最終目標に向けて頑張っている人は「~のつもり」ではなく「~をやりきった」と断言して欲しいと思います。

高校を卒業したら海外でプロサッカー選手としてプレーしたいと思っています。そのためには今以上に努力しないといけないと思うし、大学に入ってから4年間はもっと貴重な時間になりたいと思います。高校3年間の生活とサッカー部に打ち込んできた、苦しい時やあのつらい練習を思い返して頑張りたいと思います。

私は滝川第二高校サッカー部に入部出来て本当に良かったと思います。ここに入部できたおかげで、良い仲間と出会いいろんな意味での環境に出会えました。

支えてくださった皆様本当にありがとうございました。

3年間本当にありがとうございました。



感謝感激雨あられ

3年 石川 樂

3年間ありがとうございました。いま振り返ってみるとあついう間で楽しかったこと、悔しかったことなどがギュッと詰まった3年間でした。まず初めに3年間朝早くからお弁当を作ってくれたり、ドロドロの練習着を文句ひとつ言わずに洗濯してくれたお母さん、単身赴任で忙しい中で毎試合見に来てくれたお父さんに感謝の言葉ありがとうと言いたいです、"ありがとう"。その次に一緒に過ごした最高の仲間です、3年間ずっと迷惑かけっぱなしやったけど仲良くしてくれてホンマにありがと！あと特にG Kの2人にはホンマに感謝してる、G K練習とかキツイ練習の時もずっと一緒におったし、ここまで成長したのは夏月とニーハあと中尾コーチ、藤森さんのおかげです！いいライバルでいてくれてありがとう！新人戦、プリンスリーグ、インターハイ、選手権などいい結果は残せなかったけどこの滝川第二でサッカー出来たことに誇りを持てるし、みんなと出会えたことに感謝してます。最後になりましたがスタッフや滝二に関わる全ての関係者皆様にお世話になりました。ありがとうございました。



3年間ありがとう。

3年 川部 健登

僕は中高一貫コースで周りのCコースのチームメイトとは少し違いました。部活動の時間もみんなより短い、土曜日の練習には出れないこともありましたが、みんなは僕のことを他の子と何一つ変わらない態度で接してくれました。寮生活でも学校生活でも私生活でも僕の周りにはつねにサッカー部のみんながいました。はじめはコースも違うしどうしようかと考えていましたが、そんな心配はすぐに吹き飛んで行きました。そんな33回生のみんなには本当に感謝してもしきれません。僕の高校生活3年間を振り返っての思い出はどれもサッカー部のみんなとの思い出ばかりです。特に3年生になって33回生みんなで望んだ近畿大会やインターハイ、選手権など自分たちの代になってからの試合はどれも一生ものの思い出です。

また、プレイヤーの部員だけでなくFコースのマネージャーのひーちゃんにもたくさん助けられました。普段の遠征の用意や怪我をした時のケアだけでなく、練習に来れる時間は同じように限られていて歯痒い気持ちも同じようがありましたし、相談にもたくさん乗ってもらったりとひーちゃんがいて本当によかったです。



33回生のみんな、3年間ありがとう！みんなは一生ものの仲間やで！

怪我が多く、あまりプレーはできませんでした。が、滝川第二高校サッカー部に3年間いた自分の高校生活は僕の自慢であり宝物です。最後になりましたが、両親や松岡監督をはじめとする滝川第二高校サッカー部のスタッフの方々、岡先生、黒田先生、そして滝川第二高校サッカー部に関係するすべてのの方々、3年間本当にお世話になりました。

3年間を振り返って

3年 竹内 瑞基

3年間滝川第二高校に通って僕は怪我だらけ3年間でした。実質1年半くらいしかサッカーができませんでした。なのでたくさん悔しい思いもしました。ですが、最高の仲間とサッカーできたことは一生の宝物です。

1年生のときに行った台湾遠征は、僕たちが試合するときに限って雨が降って試合が全然できず、観光が多くて、旅行に行っているみたいでとてもたのしかったです。黒田和生さんにとってもいい話を聞いたり、台湾の文化、料理など、今まで経験したことがなかったことが学べとてもいい遠征でした。

3年生になって全ての大会が最後となり、新人戦、インターハイ、近畿大会、選手権と戦って全ての大会が3位におわってしまったのはとても悔しかったです。



特に近畿大会は3年生だけで戦った大会で、僕は前日に怪我をして、出れなかったのですが、みんなが僕の方まで本気で戦ってくれてとても感動しました。最高の仲間を持ったなど改めておもいました。

滝川第二高校の3年間はとても濃い3年間で中学の時とは違いとてもいい3年間だったとおもいます。3年間滝川第二高校に通わせてくれた親にはとても感謝しています。これからは違う道に進むけどこの3年間の経験などを活かしていきたいとおもっています。

宝 物

3年 高橋 日向

私はサッカー部のマネージャーをするために滝二に入学しました。33回生と過ごした3年間は、私が夢見た滝二サッカー部の3年間とは比べものにならないくらい濃い3年間でした。

入部したての頃はコースの違いもあり、本当に不安だらけでした。それでも、3年間やり遂げることができたのは33回生のみんなのおかげです。みんなより授業が長いことでなかなか練習に出られなかったり、失敗ばかりの私を33回生のマネージャーとして受け入れてくれて本当に嬉しかったです。

1年生の時に33回生だけで行った台湾遠征とニューバランスカップでずっと雨だったこと、みんなに作ったお菓子、1.2年生のときに行った全国大会、みんなでご飯を食べたこと、誕生日を祝ってもらえたこと、全部がかけがえのない思い出です。みんなと3年間一緒に過ごすことで本当にたくさんの経験をしてたくさん成長させてもらいました。

33回生が3年生になってから、悔しいことも辛かったこともいっぱいあったけどみんなが前向きに頑張ろうとする姿は本当にかっこよくて、33回生のマネージャーでいられることが誇りでした。

滝二のサッカー部で大好きな33回生のマネージャーとして3年間過ごすことができて本当に幸せでした。みんなと過ごした時間はどれも宝物です。

3年間本当にありがとうございました。



プリンスリーグ関西

滝川二	1 - 4	神戸弘陵 (千原)	滝川二	1 - 2	神戸弘陵 (中森)
滝川二	2 - 0	大阪桐蔭 (全、池尾)	滝川二	2 - 2	大阪桐蔭 (井関、小山)
滝川二	1 - 6	履正社 (熊崎)	滝川二	0 - 4	東海大仰星
滝川二	1 - 5	東海大仰星 (小山)	滝川二	0 - 1	京都橘
滝川二	2 - 0	近大和歌山 (中森、片山)	滝川二	2 - 3	近大和歌山 (眞古、熊崎)
滝川二	2 - 1	東山 (中森、口石)	滝川二	0 - 3	履正社
滝川二	0 - 5	金光大阪	滝川二	0 - 3	東山
滝川二	0 - 3	京都橘	滝川二	0 - 0	近畿大学附属
滝川二	1 - 1	近畿大学附属 (熊崎)	滝川二	0 - 1	金光大阪

3年 井関雄太

負けが続く苦しいリーグ戦でした。降格という結果になってしまい差を痛感した1年間となってしまいました。自分達には苦しい時のチームのまとまりが足りず、その一体感の所で差が出たのではないかと思います。そして、リーグ戦での勢いの悪さのまま選手権に入って選手権でも負けてしまい、1年をかけて戦うリーグ戦からの勢いの大切さも学ぶことができました。来年の県リーグでも苦しい試合や苦しくなる時期は、必ずあると思います。そういうときこそチームでまとまり、またプリンスリーグに昇格してほしいと思います。また、1年間のリーグ戦を通して成長して選手権に良い勢いで望めるようにリーグ戦1試合1試合を無駄にしないように頑張してほしいと思いました。



勝利に向かいドリブル突破!



ナイスゴール!



健闘を称え合う



長きに渡ったプリンスリーグも閉幕へ

四中工交流会

1年 眞古大輔

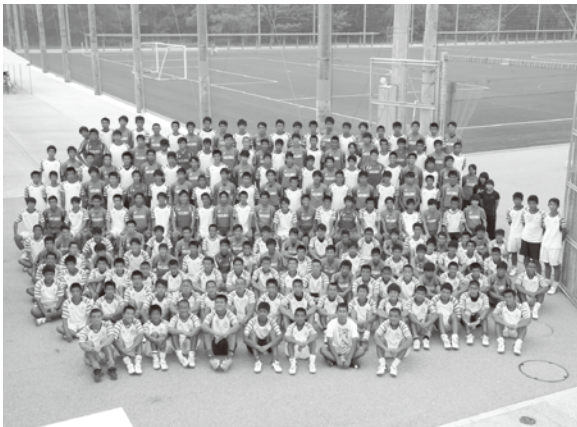
毎年恒例の四中工交流会は今年度は三重県で行われました。四中工との試合では、ピッチの上で熱い戦いが繰り広げられました。

特に、2日目の学年別対抗戦では、各学年が1つになり楽しく良い試合をする事が出来ました。

そして、交流の場としての一発芸大会はお互いにたくさんの笑いをおこし、選手・スタッフ・保護者の方々も楽しめたと思います。

この交流会を通して、新しいサッカー仲間ができたと思います。

次回は滝二がおもてなしとして兵庫県で行われるので、また新しい交流ができることを楽しみにしていきたいです。



48大会

2年 片山大地

この大会は全国の強豪校が集まるすごくいい大会でした。今年は全国に出ていないので僕たちにとってはとてもいい経験でした。自分達は下から繋いでいこうというテーマで試合にのぞみました。

1日目は休み明けということもあり体が重たくてあまりいい試合が出来ませんでした。2日目からは体がよく動いて自分達のテーマである下から繋いでゴールまで向かうシーンが何度も作れていい試合が多くなりました。

この大会を通しての課題は接戦の試合で競り負けるなど勝負弱いのが目立ちました。トーナメントとかを考えて接戦を勝てるチームになっていきたいと思います。



灼熱の中ゴールへ一直線

ニューバランスカップ

◎ 試合結果

滝川二	0 - 3	前橋商業	滝川二	4 - 1	佐野日大A
滝川二	2 - 4	日本文理	滝川二	3 - 0	佐野日大B
滝川二	6 - 1	札幌大谷B	滝川二	0 - 1	暁星A
滝川二	1 - 0	札幌大谷A	滝川二	3 - 5	盛岡商業
滝川二	0 - 1	東海大相模	滝川二	5 - 0	学法石川

2年 大村 陸人

この大会は2019年最初の大会で内容、結果を求めて挑みましたが、1勝2敗でグループリーグ3位と思うように結果を残すことが出来ませんでした。

リーグを戦う上で初戦の重要性を再認識しました。初戦を落としてしまうと、勢いもなくなるしモチベーションの維持も難しくなるからです。次の遠征、トーナメントもそうですが、初戦は結果を出すことだけを考えてプレーしないといけないと思いました。

チームとしてうまくいっている時は良いですが、うまくいかない時にどう改善するかというコミュニケーションがありませんでした。それを監督やコーチに言われる前に、自分達で気づき、実行しなければいけません。

サッカー以外のところでも、学年ごとに分かれてしまうことがよくありました。サッカーはチームスポーツなので、こういうところから見直していけたら、よりよいチームになると思います。

この遠征で出た課題や継続するところを次に活かしていきたいです。



コパ成立

2年 中谷 俊介

この大会は個の力が全てのチームに劣っていました。1日目は試合の入り方が悪かったりと当たり前のことができていませんでした。2日目は1日目の夜のミーティングで奪ったボールをパスにするというテーマを持ってプレーしました。でも相手チームはそれを当たり前にしていました。その意識の差が結果にもつながったと思います。3日目は相手の攻め方を理解してチームとして共有するのに失点したりともったいない試合もありました。

この大会で感じたことが得点がセットプレーの1点だけという得点力不足、1番思ったのが個の能力の差、足元の技術、フィジカル、予測、1つひとつのプレーへのこだわりに差がありました。良かったことは自分達の全国での立ち位置、自分達の力不足に気づけたことです。

平成30年度兵庫県高校サッカー三新人大会

◎ 神戸市大会 優勝

滝川二 2 - 0 高塚 (青木、千原)
滝川二 1 - 1 星城 (重富) (PK5-3)
滝川二 4 - 1 科技 (口石、千原、中島、萬谷)
滝川二 2 - 1 弘陵 (眞古、池尾)

◎ 兵庫県大会 ベスト4

滝川二 0 - 0 三田
滝川二 4 - 0 御影 (熊崎、森川、千原、片山)
滝川二 5 - 1 舞子 (熊崎、眞古、千原、片山、池尾)
滝川二 2 - 2 星城 (岩澤、千原) (PK6-7)

神戸市、兵庫県新人戦

2年 口石 典明

新人戦神戸市、兵庫県大会優勝という目標を設定しました。特に神戸市の星城戦では試合の中で修正することが全くできず、試合後のミーティングで自分達で試合を変えようと話して試合中の選手同士の会話が増え、試合中も自分達で状況を変え、そこから勢いをもってそのまま優勝することができました。

県大会では初戦から厳しい戦いになり御影、舞子共に点数差はあるものの試合の内容や、時には相手に攻め込まれるシーンもありました。その中で準決勝で再び星城と当たりました。

2失点共に自分達のミスから失点し、チャンスは多く作れたけど点を決められない。PKも止められたわけではなく枠外とミスで試合は終わった。

試合中に改善するとかそういう問題ではなく、自分達のミスから自分達で試合を壊した。全ては練習の詰めのみだと思ふ。この悔しさを忘れず、これから更に厳しさを持って練習をし、まずはインターハイ全国大会出場できるよう努力していきたい。



好敵手を打倒し新人戦神戸市予選優勝！



新主将！できる できる できる！



勝利を導くシュートストップ！



我らが守護神スーパーセーブ！「笑」への第一歩！

新役員のおいさつ

【2019年度 父母の会 役員名簿】

会 長	福田 幸夫	広 報	岩澤 愛
	ひろみ		奥 雄二
副 会 長	姜 元硯		幸子
	仁淑		川浪 隆宗
	永川 重明		美希
	恵子	(滝井	健一)
書 記	濱岡 哲洋	(萬谷	愛)
	里香	(渡邊	信樹)
本部会計	眞古 尚弘		美香
	和美		覚
学年会計	松本 康嗣		育代
	幸子		
会計監査	藤井 利治		
	弘子		

新役員の方々、
一年間宜しくお願いします。

新会長のあいさつ

新会長 35回生 福田 隼士 父 福田 幸 夫

‘19年度父母の会会長を務めさせて頂くことになりました福田と申します。どうぞ宜しく願い致します。伝統と実績のあるこの滝川第二高校サッカー部で父母の会の会長をさせて頂くことに責任と重圧を感じていますが、選手たちが切磋琢磨し合い、サッカーや勉強に打ち込む一助となるように皆様と共に力を合わせ精いっぱい努めてまいりたいと思います。

選手のみなさん、入学時に夢見た個々の目標に向けて努力し、全国へ世界へ道を広げていってください。そして、リーグ戦、インターハイ、選手権と力の限り頑張っ、悔いの無い高校生活を送ってほしいと思います。

また、監督やスタッフの皆様には、日々の練習や強豪校との遠征試合など、チーム強化に向けて熱心にご指導されている活動ぶりに感謝しております。

最後になりましたが、OBの皆様、OBの父母の皆様、そして多くの滝川第二高校サッカー部サポーターの皆様、いつも応援して頂きありがとうございます。今後ともお力添え頂きますよう宜しく御願い致します。



役員を振り返って

父母の会会長退任にあたり

34回生 多田 雅彦 父 多田 敦生・母 美智子

一年前、縁あって父母の会会長という重責を担う立場になりました。

不安に思いながらのこの一年。何とか会長を務めることができましたのも、力強くサポートしてくださった役員の方々、父母の会保護者そしてOBの皆様、本当にたくさんの方々のお力添えだと感謝しております。本当にありがとうございました。

振り返りますと、私たちにとってこの一年は、貴重な経験をさせていただいた実り多い一年だったと思います。

まず、会長をお引き受けするか迷っていた時、ふと読んだ本で黒田元監督の言葉に出会います。『指導者は生徒（選手）の心に灯をともすのが大切』

その時、「滝二サッカー部は選手が主役。そして、監督やコーチの皆さんが、日々懸命に選手達の心に灯をともす努力をしてくれている。父母の会でできることは限られているかもしれないけれども、何か灯をともすお手伝いできないか。」そういう思いが湧いてきてしまい、思わず「会長をお引き受けします」と言ってしまいました。

会長就任後は、監督、スタッフ、選手、マネージャーの皆さんが思い切りサッカーができるよう、父母の会も一体となって応援、サポートに取り組みました。選手達がサッカーを楽しみ、ひたむきに取り組んでいる姿を日々見られることが、会長として 何よりもうれしいことでした。

そして、9月に開催された父母の会同窓会で、再び黒田元監督の言葉に出会います。挨拶で壇上に上がった黒田元監督からの「『みんなで力を合わせ戦う』こと、それが滝二の良さだと思います。それが、滝二の伝統です」というお言葉です。

その言葉は、滝二賛歌冒頭に「みんなで力を合わせ 怯まず 驕らず さあ澁刺と 魂込め 無心で立ち向かえ」という歌詞で記されています。選手、監督、スタッフ、マネージャー、父兄、みんなが大切にしてきた伝統の言葉、その言葉は、これまで滝二が全国大会へとつながってきた大事なキーワードだと信じ、試合前の会長挨拶の中で「みんなで力を合わせて戦う」という言葉を必ず入れるようにしています。これからも、大切にしていきたい言葉です。

会長としての1年間、父母の会の活動を通じ、みんなで戦うことの楽しさ、そして充実感を味わうことができました。これも、日々ひたむきにサッカーに取り組んでくれている選手達に感謝しないといけないでしょうし、そういう選手達を懸命に育ててくださっている監督、スタッフの皆様、そして様々な面でこの1年間一緒に取り組んでいただいたご父兄の皆様に改めて御礼申し上げます。

まだまだ、滝二サッカー部の伝統は続きます。今後とも、父母の会の益々のご理解とご協力をお願いできれば幸いです。1年間お世話になりました。本当にありがとうございました。

滝二賛歌

誇り持ち さあ歌おう
みんなで 力を合わせ
怯まず 驕らず さあ澁刺と
魂込め 無心で 立ち向かえ
俺たちが ついている
恐れることなど ないさ
支え合い みんなで 勝ちとろう
希望の (ESPERANZA) の光



響き渡れ 俺達の歌
向かっていく 滝二のために
届けたい 俺たちの気持ち
勝利を 運べるように

Oh Oh Oh Oh Oh Oh ~ 2回